

第3回 飯山市学校・保育園適正規模等検討委員会（議事録概要）

日時:令和元年10月28日(月)午後6時30分

場所:飯山市役所4階全員協議会室

1 開 会

2 あいさつ

委員長)

まず始めに、台風19号で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。一日も早く普通の生活に戻られることを祈っております。今日は、第3回目の仕切りなおしの会議ということでございます。今日は本委員会の主題である、子ども達によりよい教育環境のための適正規模についてご協議をいただき、学校規模の適正化に向けた方向性について見出していきたいと考えております。今日また限られた時間ということで、短い時間ですが、よろしくご協議いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

教育長)

みなさん、あらためまして、こんばんは。お仕事でお疲れの後、ありがとうございます。先週から今週にかけての台風19号でいろんなことがありました。私がほっとしたのは、飯山市の中で市街地にあります飯山小学校と保育園が浸水しなかったこと、また休日であったこと。これが平日の昼間であったら、学校は先生方はどうであったらうかと考えます。そうした意味では、休日であったことにほっとしております。いよいよ3回目ということで、課題検討委員会の答申をいただいてから、緻密に議論を積み重ねてまいりました。規模ということ突き詰めて考えますと、当然、生徒全体数から規模を逆算していきますと、配置ということが問題になってきます。配置が問題になれば、学校数推移というものも課題として出てくるものと思っております。本日は、そうした意味で事務局から様々な資料が用意されておりますので、ぜひ、未来の子ども達のために検討を深めながら、よい答申に繋げていただければと思っております。本当に今日はありがとうございます。よろしくお願いいたします。

3 会議事項

(1) 諮問に係る用語の定義と今後の進め方について

委員長)

本日、皆さんで用語の定義について共有いただきたいと思いますということで提案させていただきました。事務局から説明をお願いします。

～事務局から説明～

委員長)

説明があった(1)について、ご質問等ありましたらお願いします。補足させていただきますが、適正規模・学級数について小学校だと1学年にすると1学級から2学級ないしは3学級で6学年12学級、中学は1学年4学級から6学級までが国の標準と、国の考え方はそんな関係で、小学生は2学級から3学級、中学生は4学級から6学級を適正規模という捉え方をしているということでございます。

そんなわけで、去年の課題検討委員会では、これとは違った形で小学校は2クラスにしましょう、中学校においても2クラス以上と、この段階で若干違っております。それを踏まえて、ご協議いただきたいと思います。何かご質問はありますか。スケジュールの関係もそんなわけで何かありましたら、途中でご発言いただければと思います。

(2) 小中学校の適正規模・適正配置について

- ① 今回の提案事項について
- ② 小中学校の推移（検討シミュレーション）について
- ③ 小中学校の統合シミュレーションについて

～事務局から説明～

委員長)

一番はP3の適正規模と、どうするかということですが、第2回の検討結果、いろいろなご意見がございました。小規模校のメリットを語られた方もいらっしゃいましたが、そうした中でも、全体的には、今の規模ではいかがかということかと思っておりますので、その規模について、今日のこの第三回の提案事項の検討ということになっております。適正規模は小学校・中学校共、1学年複数学級、いわゆる2学級以上、とするという前提に立って、ということでシミュレーションができておりますので、まず、この前提の適正規模について、皆さんにご協議いただきたい、というように思っております。

どなたか最初にご発言いただける方はいらっしゃいますか。

現状、飯山小学校以外の学校は全て単級となっておりますので、今回の提案では、よりよい教育環境とするには複数学級を求めたいという内容でございます。これを元に、次のシミュレーションが出来上がっているわけでございます。それぞれ、その段階に来たら、統合を検討する、という段階を示しているということでもあります。ただ、現状、城北中校区に小学校は全て単級でありますので、既に検討の時期には入っているんですが、実際には次の議題で言うことになっておりますけれども、すぐには、地元説明等も時間なども必要となってまいりますので、早めにとことでのシミュレーションにはなってございますけれども。

まずはP3について、皆さんの考えを統一、共有していただかないと、次へ進まないということでもありますので、それについて、PTAの皆さんからご発言をいただきたいなと思っております。現状、飯山小をのぞいてはすべての小学校が単級ですが、この教育環境を2クラスに求めていきたい、という趣旨でございます。

一番、このシミュレーションのところに細かな数がふられていますが、特にクラスの人数は5年後10年後、15年後とすると、どんどん減ってしまうということは見えているわけで、いずれにしても何かの手立てをしなければいけないと、単級さらには複式の学校が出てくるということが書かれているわけですが、いかがでしょうか。まず城北中校区の小学校では、ということで、どなたかいかがでしょうか。東小、いかがですか。

A委員)

この定義でよいと思います。

委員長)

いわゆる小学校であれば2クラスを求めていきたい、と。

A委員)

はい。

委員長)

常盤小はいかがですか。

B委員)

私も、これでよいと思います。私も、自分の子どもの事を分析なり考えてみましたが、やはり切磋琢磨させるには複数学級のほうが良いかなと思います。

委員長)

泉台小、どうですか。

C委員)

個人的な意見ですが、私は自分が小学校時代は大阪に住んでいまして、大きな団地のなかの学校でしたので、1学年35人程で5～6クラスの時代をすごしました。子どもの教育のために環境豊かで不特定多数より絶対的少数の方が良いのではないかと思って、今、私は飯山で生活していて、現に今、子どもは、友達はたくさんはいないけれど、まとまった少数の中で、全体的な信頼をもってみんなで生活しているような気がしています。でも、私は、子どもが少人数の中において、周りが、がやがやしている方がいいなと感じていたので、シミュレーションでパターン1とパターン2とあるわけですが、ここに、ひょっとしたら15年後ぐらいには中学校1校、小学校1校で、小中一貫校というのもありかなと思うので、保育園ぐらいからシミュレーションパターンに加えていただけたらと思います。15年後を見据えた小中一貫校パターンがあってもよいのかと思いました。

委員長)

また、少し違うのかもしれませんが、実際、シミュレーションの表では15年後には中学校で単級ができてくるので、そのときに、もう一度中学については検討、要は検討ということは要は統合に向けた検討ということで、そのときに小学校はどうなるのかということ、難しいというか、今度は配置との関係もできます。通学方法、通学手段ですね、低学年に向けてこれでいいのかなという部分、難しい問題もできます。いずれにしても、この表で見ていくと、中学も15年後には今で言う適正規模という定義を決めた場合に該当してくるという表にはなっています。中学も検討の段階に入る時期には来てしまいますよ、ということです。そうすると、この表から複数クラスを求めるといっても2クラスですが、今の段階では・

C委員)

それでよいと思います。

委員長)

そうですか。それでは城南中校区で秋津小の方。

D委員)

適正規模につきましては、このとおりでよいと思います。心配しているのは適正配置であって、たとえば小学校2校にするということで飯山市内に配置した場合に、中学生が徒歩で通っている方、自転車で通っている方の地区については、小学生ではスクールバスなどの配慮が必要になると思います。それから冬季の徒歩については、その限りではないということもあるでしょうし。今は気候が変動的になっていますので、猛吹雪が続いたときなどは現状でバスで送迎できないという地域の方含めて、なんらかの配慮をいただくということを前提にして考えていただくことが必要ではないかなと思います。

委員長)

ということで、欠席の委員さんもいらっしゃると思いますが、念のため、学校長に複数ということで、さらにそれを超える必要があるのか、現行の単級の捉え方で、第2回の時にも、かなりお話をいただいているのですが、確認のために、やはりこの提案でよいかということをお聞きしますが。

E委員)

適正規模については昨年度の課題検討委員会で審議され答申されたものですので、前提よりも私は統合シミュレーションに関わってくるところが大事になってくるかなと思っております。

先ほど、委員長から「その段階に来たら統合を検討する」という話があったと思いますが、今

は5年、10年、15年のスパンで見っていますが、本当にそれでいいのかなとは思っています。つまり、10年後に飯山小は単級一部2学級になったから、そこで統合、ということではなく。すでに2学級が望ましいということで動いていて単級になったら検討するというのでいいかどうか、と。複数学級のよさを、その時になって考えるということでもいいのだろうか、と思います。様々な状況があるとは思いますが。そうしたときに実際にシミュレーションというのは、特別支援学級に入級するお子さんがいらっしゃれば、当然、通常学級のお子さんは減るわけだから、可能性として、もっと早く単級になることもありますし。単級になってからでは、そのとき既に複数学級という前提が失われている中での統合ですから、そこまで引き伸ばして言いかというのは、統合となったときのシミュレーションというのは十分議論が必要ではないかと思います。

それから今、現実的に県からも飯山小の場合には特別支援教育や英語等、様々な5人の加配をいただいています。それは、県の規模ということもあるなかでの加配でもありますし、そうした時に、それはある意味様々、多様な教育ニーズに対応できる人的配置にはなっているわけです。そうしたことを考えた時に、この③の部分は慎重に検討していく必要があるのではないかなと感じます。

委員長)

ありがとうございました。実際にこのシミュレーションも5年刻みとなっていますが、教育委員会で提案いただくときには、たぶん一括でお話する形で、計画書の説明があらうかと思います。そのなかに、どういう踏み込み方ができるのかな、という、今のお話で、いわゆる5年刻みで提案ができてくるのか、現状、たとえば次、飯山小以外、単級という中で、提案の前倒しというか。

事務局)

これはシミュレーションということで、3パターン作らせていただきましたが、現実的に統合するということになると、多くの調整がある中で、すぐにできない部分もありますので、どうしてもスパン的なものは作らせていただかないと、なかなか難しいのかなとは思っております。今の状況では、城北中校区が緊急を要するというので見据えて5年後をだしておりますので、5年スパンが良いということではないのですが、そのあたりすぐにできないということもあるので、一定程度の間隔は空けざるをえないと思っております。計画書の中にどのような形で盛り込んでいくかということについては、五年後もしくは今の状況からみて必要な時期となるのか、検討させていただきますけれども、ある程度の幅は見ないと実際には難しいのかなと思っております。計画書を作るときには、どのように盛り込んでいくのか、考えさせていただきたいと思っております。

委員長)

ということで、校長先生、よろしいでしょうか。なかなか難しい部分もあって、やはりある程度、順番的なことも考えて、時間的なこともかかるということのなかで計画を作っていくたいということのようです。そうすると、小学校の関係では複数学級というところのなかでシミュレーションの中では、あくまで中学校区のなかでの統合ということでしか現状検討できませんので、それぞれの来るべき時期に1校ずつ統合を求めたいということが、この検討委員会では統合の提案をしていきたいという趣旨になろうかと思いますが、よろしいでしょうか。中学の関係では一応、108人、適正規模という捉え方をした場合には、108人規模を割る状況になった段階で、統合の検討を進めてというイメージになっていますが、これでよろしいでしょうか。まず、PTAの方がですか。

F委員)

建物も40年で耐用年数もありますので、統合を考えていくのも必要かなと思います。

委員長)

城南中の関係では現状、一応、適正規模を保ってはいるんですが、将来的には市全体を考えた場合にはという中で考えた提案があるということですが。シミュレーションの検討もパターン

①、パターン②とありますが、パターン①については、いずれも部分的、一部統合では単級ができてしまうような思案でありまして、そうするとパターン②の案というのが最終的な案になるかと思いますが、それぞれの城南校区、城北校区のなかでは来るべき時期に一校に統合する案というパターン②の案に、今いただいたご意見、まとめてよろしいでしょうか。

刻みの年次は、またご検討ください。

それでは適正規模についての、この委員会での捉え方は、学年ごとに複数学級という捉え方で、現在単級のところは、特に小学校の場合はほとんどが単級ですので、統合に向けての提案をしていくということでもとめさせていただきます。中学校は来るべき時に。

適正配置という部分でふれますと、それぞれの中学校区 2 校ということでシミュレーション進めさせていただきたいと思います。統合した場合には通学について一番問題になるかと思いますが、現状の通学基準について④の内容になろうかと思いますが、事務局からの説明をお願いします。

④現状の通学方法について
～事務局からの説明～

委員長)

事務局からの説明がありましたが、現状お困りの部分など、お聞きになっている点、ご意見ありましたらお願いします。

G委員)

3 中学校が 2 中学校に統合された際に P8(2)になりますが木島地区生徒の通学方法について、橋梁を利用するということで冬季間について、毎年、上新田・安田地区の生徒については橋梁を渡るの難しいという声を聞いております。こうした通学方針でということではありますが、毎年、通学方法について大変だという声が上がっておりますので、お伝えしておきます。

委員長)

実際に小学校の統合等を考えた場合には大幅に通学方法が変更するかと思いますが、現状を踏まえて通学の見直しといいますか、どういった形で、とくに低学年に影響があるのかと思いますが、みなさんからご意見があったら、もう一度お聞かせいただきたいと思います。統合を踏まえてという部分で、現状の状況から推測してのお話になるかと思いますが。

現状の基準で、統合の場合、橋梁を超える場合の配慮については、またあるかと思いますが、低学年の冬季間などもふまえて、何かありましたら、といいますか、まずどこに統合するかが見えていませんので、城南校区・城北校区では統合になるのですが、どこに、というのは見えていない段階での話にはなりますが。

E委員)

具体的な通学方法であったり、配置になるのかということは、これまで学校統合に関わらせてもらったことから言わせていただきますと、統合ということが決まったとして、最後まで残るのが、この通学方法です。子ども達を安全に無理なく通学させるには、という部分は考えていただけたらと思います。

委員長)

距離だけでなく、時間的に1時間以内という部分においてはどうでしょうか。

E委員)

飯山市内では現状1時間以上かかっている地区が起こりうるということでしょうか

事務局)

現状では 1 時間以上かかっている子ども達はいません。斑尾地区の子どもたちが時間的に一番長いのですが、それでも 40 分前後です。

委員長)

現状の基準というものを認識いただいた上で、どう要望していくのが、より理解を得られるかという部分でまたご発言をいただけたらと思います。

H委員)

基準が夏期冬期とあるのは理解できますが、私は神明町で集落が細長いので、どこに統合するかはわかりませんが、集落のはじからはじまで 1km ある地区もあります。基準だけで決めてしまうと、すごく遠いけど歩かなければ行けない子、近いけど集落の中心で決めるために表現は悪いですが得する子。集落で隣同士で、あるお宅は冬季間、北飯山駅から JR 使って通学できて、あるお宅は神明町のために徒歩。基準があるのでそれ以上は言えませんが、保護者が安心・安全に通学できることがいいかと思いますので、機械的に分けるのではなく段階的に配慮いただけると良いかと思個人的には思います。

委員長)

段階的かというとのは、低学年・高学年ということですか。

H委員)

それもありますが、地区中心で決まるために、隣同士でも通学補助がある地区とない地区、柔軟な対応ができないかということです。

事務局)

つまり、集落ごとに通学方法を決めているので、服部委員が言われているのは、飯山地区でいうと神明町と北町が隣接していて、北町の子は JR が使えるけど、神明町の子は使えないというように、家はすぐそこにあるのに、集落単位で決められているために、ということで、柔軟な対応ができないか、ということですよ。

H委員)

そうですね、まあ、大変なことになるとは思いますけれども。

事務局)

どこで線を引くかというところは、やはり難しいと思います。厳密に考えないと、というところではあります。

委員長)

ほかには、いかがでしょうか。

A委員)

城北中への通学はスクールバスですが、東小では校区が広く、細長いので日が短い季節など弾力的に配慮いただくとありがたいなと思います。資料を見ると下校のみスクールバスというのがありますが、配慮いただくと親としては安心かなと思いました。

事務局)

今のお話は、戸狩小の低学年は下校のみスクールバスという箇所だと思いますが、これは登校は路線バスだが下校は路線バスがないためにスクールバスということです。

委員長)

原則、通学方針に沿って、路線バスがあるところは路線バスでという状況のようです。現状についての理解についてはよろしいでしょうか。実際に統合となれば、保護者要望もあるでしょうし、また状況に応じ配慮をいただくようになるかと思いますが。

それでは先ほど統合の位置について、現状は決めていませんというお話がありましたが、それぞれ城南中校区、城北中校区1校にまとまるということでしたが、委員会ではどういった位置決めが適当なのでしょうか。皆さんからご発言をいただきたいと思いますが、1番の委員会資料に「等」には具体的な位置までも含まれているということです、城北中校区が差し迫ってありますので、城北中校区についていかがでしょうか。便がよいところというようになるのかと思いますが、通学の時間もかからずに、仮に路線バスがあるとすれば路線バス利用できる場所となるのか、あるいは徒歩通学の子が多い方が便利なのか。何かありましたらご発言お願いします。

C委員)

どこの場所が最適かと考えるのか、どこかの学校を利用する前提で考えるというのかで、なかなか建築年数を考えると一概には、いずれも言いづらい気がします。

B委員)

私も一緒です。どことは言えないですね…。

A委員)

全く場所をフリーに考えられるのと、ある場所へ行ってくださいというのとでは、だいぶ方向性が異なるかと思います。あるところへ集合していただきたいというのは、今は単級の学校の中では教室数が足りないのが見えている。できれば、ある学校を使うと示すのか、全く新しい場所にフリーでなのかを示していただくとよいのかなと思います。

あとは、タイムリーなところで、災害時の避難施設の指定も成りえますし、東日本大震災の時のような犠牲者がでてはいけないので、幅広く考えてフリーな場所のほうが考えやすい気がします。

副委員長)

適正規模配置、36年に2クラスというのは、目標値だと思っていまして、飯山市内の教育関係の問題を取り扱う理想的な目標値が示されているのだと思いますけれども。

私は、こんな先の心配をしたらどうかと思いますが、最終ゴールに土地の取得や統合学校建設と考えると、かなり大規模な学校になるかと思いますが。そうすると土地取得や建物取得とか、簡単に10年後に建てられるのかなという、つい、予算的な面での心配をしてしまうのですが。公的な学校には補助金もあるということで、そうした心配はないということですか。

事務局)

いままで発言いただいているとおり、建物は新設とするか、既設の学校を改築していくとすることで位置はだいぶ変わってきます。新設の場合、飯山小規模で30億円ほどになるかと思いますが。施設の長寿命化という面で国の補助金はありますので、金額的な部分は少し置いて、今ある学校をリニューアルしていくのか、フリーで考えていくのかということを検討いただけたらと思います。

副委員長)

私としては、基本的に5年後に統合したとしても、どちらかの学校を使用してしかないかな、と思います。それで最終的に新設ということでない、二重投資といいますか、お金を二重に使うこととなりますので、中間の段階では、どちらかの学校を活用するという形にして、最終目標と

して統合した学校が新たに開校するのか改修するのか、そのあたりが、心配しなくて良いことか
もしれませんが、気にはなります。

委員長)

今の状況ではフリーといいますか、そこまでこだわらずに。ただ実際に費用面を考える段階
になると、それぞれの立場で案もでてくると思います。現状の施設は、耐震強度はクリアしてい
るという状況かと思えます。ただ、学校の耐用年数はコンクリートは50～60年ですけれども、今
の長寿命化の補強をすれば、ある程度期間が長く活用できるのかと思えます。新たに土地を取
得するのは非常に難しいことかと思えますが、ただ災害の避難所としての活用という部分では、
多少配慮していかないと いけないのかなと思えます。

F委員)

情報として1つお聞きしたいのですが、戸狩と東と常盤と泉台では、施設としては、どの小学
校が一番大きな学校になりますか。建物とか敷地とか坪とか。保護者が一斉に集まるように
なると、駐車場の広さも重要に感じます。駐車スペース含めてある程度大きくないと、とは思
います。

事務局)

建物が一番大きいのは、戸狩小になります。

委員長)

また資料で出してもらえれば。要素とすれば避難所の要素や、駐車場の広さとか。

事務局)

用意したいと思えます。

委員長)

子どもたちの通学手段についてはどうですか。それではエリアはそのまま、位置決めまで
この委員会に求められるものとして協議必要であれば、参考資料も見ていただいて、検討する
順位付けもできたらと思えますが、よろしいでしょうか。

G委員)

1つよろしいでしょうか。昨年度の課題検討委員会の際に、小中一貫校の信濃小中学校を視
察していますが、構想の中におありかもしれませんが、児童生徒数が減る中で、いかにコミュニ
ケーション能力をつける、兄弟が少なくなっていく中で、上下関係を意図的に作るような、規模
的に小学校と中学校が遠く離れているよりも近くにあって、小学生と中学生が一緒のスクール
バスに乗り、上の年齢の子達が下の年齢の子達を見るようなことも考えられるとよいと思
います。小中一貫校のメリットデメリットなども参考にしながら、配置を検討出来たらよいと思
います。先を考えると、ポツン、ポツンと離れているよりも、ある程度まとまっているのが、駐車場
などが共用スペースとなるなら良いのではないかと思います。

委員長)

適正規模と配置について方向性を見ていただくということですが、本日は提案いただいた資
料どおりで止めさせていただいて、次回、たたき台という部分で、スケジュールの中で、どのよ
うな項目を入れたら、実際によりよい適正規模に向けた教育環境ができるのか、ヒントがあれば
教えていただきたいと思えます。

統合後の教育内容ですとか、ハード面だけでなくソフト面など、たたき台の中に入れたら、統
合に向けた、よりよい教育環境ができるのか、お話しいただけたらと思えます。

E委員)

G委員の意見に繋がりますが、これまでは昨年度の答申を基に規模や数の話でしたが、今後は中身の部分、適正規模という点で、どのような夢や希望を持った学校にしていくのかという点が大事になってくるかと思えます。どのような学校像を描くかという点も、通学や施設の様々なシミュレーションも考えていかないといけないと思えます。検討している間にも子ども達の人数が減少していきますので、かなり考えていかななくてはならないのではないかと思います。

委員長)

将来の子ども達を送り出す学校のイメージや求めることについて、ヒントがいただけたらと思えます。

I委員)

先ほどから何度も出ていますように、安心して預けられる、安全面など、通学方法や保護者に配慮した案を出していただけるとありがたいと思えます。

I委員)

シミュレーションをみると必然的に統廃合が必要になってくるというのではなく、逆手にとって、これまでではできなかったことが実現できるような統廃合が良いかな、と思えます。それから個人の資質を伸ばすような学習指導要領を考えると、飛び級は難しいかもしれないけど、同じ敷地に小中学校があった方が良くと思えますし、小中のカリキュラムを柔軟にできるようなことも良いのではないかと感想として持ちました。

事務局)

課題検討委員会の中でも、一定程度ソフト面としてこうした学校を目指す、というような意見も出ておりますので、そうした意見を踏まえたたたき台を作り、未定稿としてお示ししご協議いただけたらと思っております。そのような形で資料お出ししたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

委員長)

この検討委員会では完璧な教育の在り方を示すのではなく、こうした教育を求めたいとか、建物やお金や統合に向けてはいろいろな課題があるかと思えますが、そうしたことを大事に今後進め、複数学級を目指してほしいと、そうした趣旨としての捉え方しかできないのかなと思えます。そうした意味で、よりよい、最適な適正規模についての教育環境、というところを目指していきたいという趣旨で仕上げができればよいのかなと思えます。

事務局にはそうした趣旨でまとめていただきたいと思えます。お願いします。

4 その他

・次回(第4回)委員会 _____ 月 _____ 日 () _____ ~

5 閉会